

週報

【 No.715 2016/3 第2例会 】

例会日：毎週金曜日
 例会場：碧海信用金庫本店3F
 安城市御幸本町15-1

TEL：0566-75-8866
 FAX：0566-74-5678
 Email：anjo-rc19580206@katch.ne.jp
 HP：http://www.anjo-rc.org

第2860回例会

2016年3月11日(金) 12:30~13:30
 司会者：岩井 春次君
 ソング：「手に手つないで」「四つのテスト」
 卓上花：チューリップ
 ニコボックス報告：山口 佳久君
 雑誌委員会：横田 秋三朗君



世界へのプレゼントになろう

2015-2016年度RIテーマ：

「世界へのプレゼントになろう」

安城ロータリークラブ会長方針：

「原点に帰ろう

～BACK TO THE STARTING TO POINT～

- 会長：神谷 明文
- 幹事：寺田 孝司
- クラブ会報：奥嶋正衛・恒川憲一・小野田真代
- 創立日：S33年1月10日
- RI加盟認証日：S33年2月6日

■ 幹事報告

寺田 孝司幹事

1. 3/18(金)職場例会です。
2. 4/8(金)は例会時間変更18:00～より例会場にて例会を行います。
3. 3/6・7宮崎にて行われました安城RCゴルフコンペ第3回優勝は寺田孝司君、第4回優勝は加藤正人君でした。

■ 出席報告

鳥居 博行君

会員	58名
出席義務者	43名
出席	37名
欠席	6名
出席免除者の出席	14名
出席率	89.47%
修正出席率	2月26日 第2858回例会 87.27%

◆卓話

担当：石川 義典君

テーマ「いつまで続く？中国人の爆買い」

ロータリーに入会して、今年で14年目、4回目の卓話です。

先回は、JCの頃からの友人である上田敏博氏にフィリピンのスモーキーマウンテンについての話をして頂きましたが、今回は私自身が感じている事と、昨年の流行語大賞にもなりました「中国人の爆買い」について、お話ししたいと思います。

今年の年初、ある会社の新年会が名古屋のJRマリオットアソシアホテルでありました。その帰りにJR高島屋の三省堂に寄って、一冊の本を買いました。「爆買い後」彼らはどこに向かうのか?・・・という本です。今日は、その本を参考にしながら、私の最近感じた事を含めながら、本日のテーマ【いつまで続く「中国人の爆買い」】の話をしていきたいと思えます。

先月2月の6,7日で私は妻と下呂温泉と高山に旅行にいきました。折しもその日は中国の旧正月、春節の始まりの日でした。車で行こうと思っていましたが、寒波が来ていて、天気予報に雪のマークがありましたので、スタッドレスタイヤをはいていない私の車を諦め、のんびりJRで行くことにしました。

名古屋で昼食をとりワイドビュー飛騨に乗って下呂温泉に向かいました。駅でビールとつまみを買込み、のんびり飲みながらの列車の旅も「たまには、いいものだなあ。」と思いながら、3時ちょっとすぎに下呂温泉に着きました。下呂温泉では、湯ノ島館という旅館が予約してありました。この旅館は明治時代の建物で玄関に、ロビー、本館が全て木造建築でもあり、昭和天皇がお泊りになったという由緒ある旅館でした。お値段もお高く、一泊一人27000円ぐらいする宿でした。にもかかわらず、送迎用のマイクロバスには、一週間は泊まれるぐらいの大きなスーツケースをいくつも持った中国人が乗り込んできました。日本人は私達ともう一組のみ、バスの中は中国語だらけ、

『ここはどこ国だっけ?』という気分になりました。バスは、坂を登り、山の中腹の宿に着き、中国人の一行のチェックインが済むのを待ち、チェックインをすませて部屋に案内してくれた中居さんに「今日は春節の関係で、中国の方が多いですね」と尋ねると、本日当館は、ほぼ満室でその内の7割の方が中国の方です。・・・という話でした。

翌日の高山の古い街並みも中国人だらけ、古民家を改装した喫茶店に入ったのですが、2階の窓際の席に座り小石を投げたら、ほとんど中国人にあたるんじゃないかと思える程でした。

高山についてすぐに帰りの列車のチケットを購入しようとしたのですが、すでに指定席は、ほぼ満席、なんとか同じ車両の席は確保のしたものの妻とは離れ離れの席になりました。ワイドビュー飛騨は、富山発の名古屋終点ですが、富山を3両で出発し、高山で2両連結して5両編成になるのですが、連結した2両は、中国人の団体専用車両でした。

さて、本題の【いつまで続く「中国人の爆買い」】ですが、中国は、ここ数年めざましい経済・産業の発展を遂げてきました。私は、今までに4度中国を訪れたことがあります。最初は1998年の中国に返還される前の香港、2005年には上海、蘇州。2010年の上海万博。2000年は大連。その時の中国の印象は30年前の日本の姿であり、大型ディーゼルトラックが真っ黒な排気ガスを出しながら走り、街中が埃ぼかった印象があります。

最近中国人が日本を訪れる理由の一つ目は、中国経済の発展により中国人の生活が裕福になったことが挙げられます。現在中国のGDPは、日本をぬいて世界第2位となり、2015年の経済成長率は、中国は6.81で、日本はアベノミクス効果により若干経済は回復しつつあるものの0.59%です。中国はまだまだ発展途中で日本の10倍もの経済成長であるという事です。最近中国は経済の成長が低迷しつつあるとか、中国経済のバブルの崩壊の恐れがあると言われていますが、この数字を見てもわかるように中国経済は元気です。

第2の理由としては、中国政府がビザの発給を緩和したため、中国人が日本を訪れやすくなったことです。以前中国では、ビザを発給してもらうのに必要な書類は、在職証明書、預金残高証明、通帳のコピー、航空券、旅行日程表、ホテルの予約表等を旅行代理店経由で申請し、ビザが発給されるまでに数か月かかっていました。(書類の不備で申請がおりない場合も多々あった)

また、個人のビザの発給には、不動産取得証明とかが必要であったが、現在は所得証明(但し年間1000万以上)があれば簡単に発給されるようになった。また、1度日本を訪れた事のあるお金持ちの中国人は、5年間有効の数次ビザが発行され、中国人のリピーターがますます増える傾向にあるという事です。

団体旅行であれば、このように日本に渡航するビザは前より比較的簡単におりる様になったとも言われています。さらに2015年の1月からは、中国人観光客に対し、それまで発給していた数次ビザの要件も緩和しました。それによって、一昨年来日した外国人で多い順番は、1位台湾(中華民国)、2位韓国、3位中華人民共和国でしたが、昨年は断トツ1位が中国で、前年比80%増の241万人でしたが、今年はその倍の500万人の方が日本を訪れるであろうと言われています。

そしてその消費額は、総額5583億円で、全外国人の約30%は中国人の爆買いです。一人あたりでは、1回の旅行に約23万円を使うといわれています。

じゃあ なぜ中国人は日本に来たがるか? ですが、日本ほど近くて、安全で、高いサービスを受けられるところはないということです。また 最近では円安のため、お買い物も随分お値打ち感があり、安全で品質の高い日本製の買い物ができます。また、世界的な日本食ブームもあり、本物のおいしい日本食を堪能できるので中国人は、こぞって日本にやってくるのです。

中国人がお土産に必ず買うもので「神12葉」というものがあります。これは、中国のネットで出てくるものなのですが、具体的に商品名でいうと、「熱さまシート」「サカムケア」「龍角散」「サロンパス」「命の母」等です。なぜこんなものを友人や親族に大量に買っていかるといって中国の医療事情に起因します。中国の医療事情は日本と比べてかなり遅れていて、ちなみに医者にかかるのに高額のお金がいるということです。中国の病院では、診察にかかる前に前金でお金が必要です。また、病院の絶対数が少なく、朝の5時から並んで順番待ち、一日がかりで医者にみてもらうことは、ざらにあるということです。薬もまだまだ漢方薬が多く、安心して使える近代的な薬が薬局には販売されておらず、子供がちよっと風邪をひいても、大変なことになるといって事情を反映しています。

あとは、日本で売れているものは、皆様ご存じの通り、紙おむつ、化粧品、家電では、炊飯器に便座(シャワートイレ)やステンレスの保温水筒もよく売れています。

ちょっと変わったもので売れているのが、日本の健康診断ツアー。PETやMRI等の高度な診察を受け、ついでに日本を少し観光しましょうとかいうのが売れているそうで、これもまた中国の医療事情につながるものでしょう。

現在、東京のマンションが中国人や台湾人に非常によく売れているのですが、これは、東京オリンピックがあるからとか、投資目的とかと思われがちですが、実は、一度日本に住んだことのある人、たとえば中国の留学生や日本の企業で働いたことのある研修生が、自国に帰り、老後は先進医療の行き届いた日本に住みたいと思っている人が多いからだとも言われています。

しかし、中国人の訪日は全て良いことばかりではありません。都内では、慢性的なホテル不足にバス不足。アパホテルのようなビジネスホテルが一泊35000円になってしまう事が起きたり、先日軽井沢で起きたスキーバス事故なども、バスの運転手不足から起きた事故かもしれません。

また、最近京都では、ホテルが取れないことから、中国の旅行社がマンションを借りて、旅行客を順番にそこに宿泊させていて、他の住人から騒音やゴミ捨ての問題でクレームになっているなどの事例もおきています。

少し前までは中国人は東京から入り、新幹線で名古屋・京都・神戸等を観光し、大阪から出国するルートが日本の旅行のゴールデンルートと呼ばれていましたが、最近では大阪や東京のホテルが取れにくいので、名古屋のセントレアを発着し、北に上がる名古屋・下呂・高山・白川郷・金沢というドラゴンルートというものもできて、中部地方にも大挙して中国人が訪れる様になりました。名古屋の栄のど真ん中にドンキホーテが出店したり、常滑のイオンが出来たのも中国人の観光客の帰りにちょっとお土産でもをあてにしたものといえます。また最近では中国人の爆買いの殿堂のラホックスも名古屋に出店するみたいです。

さて、本題の「いつまで続く?中国人の爆買い」ですが、結論から言いますと、「まだまだ続く」ということです。中国の経済が少々低迷しようが、バブルがはじけようが、日本と中国の間で戦争や紛争が起こらない限り、中国人観光客はそう簡単には減らない。なぜなら中国は30年後の未来の国の姿がすぐ隣の国の日本にありそれを追い求めていく限り、そして中国がすべての面で日本に追いつくまで続いていくのだと思います。

理由は、いくつも先ほど述べたとおりです。中国人は本当は日本が大好きだし、世界で一番フェラーリを買うというような真のお金持ちがたくさんいるからです。中国の人口は13億5700万人で、日本の約13.5倍もの人が中国にはいます。そして、中国人の爆買いを当て込んだインバウンドビジネスには、まだまだチャンスはあるということだと思います。